

2017/4/21

## (日々雑感 84)



警察の女性窓口担当を腹の底から入れた力の胴間声で、しとど恫喝を効かせて怒やつけました。

あまりにもうかつで幼稚な連絡不備が度重なったので。

「ミサイルが飛んでくるこのときに、この不備で市民が死んだらどうする！！危機管理が甘い！！緊張感を持て！！」

それを機に、表門を突破し、管理職警察官を呼び出すことに成功しました。

恫喝と怒声はもちろんお芝居でした。

そうでもしないと上役が出てこないからです。

そこで、やおら自治会副会長と私人の公私は分ける。決して肩書きによる権力の乱用はしない旨を伝えました。

芝居であったことと公私を混同しない旨の宣言で、まず、地ならしをして相手の偏見をフラットにしました。

次に私人としての本来の用件を手短に述べ、して欲しいこととその効果的な方法についての自分なりのアイデアを提案しました。

今度は、警察官の立場に立って、公に出来ないサービス残業や過労死しても、大きな新聞社は何故か取り上げないこと等も含め、さらには市民の無理難題にいかほど苦勞されているかの理解をさらりと示しました。

且つ、指揮命令、伝達系等の不備は市民が犠牲になるだけでなく、警察の立場に立てば、その未達の間市民の犠牲者に対して、原発事故時同様の社会的避難を浴び、組織の信頼をも傷つけかねないので、まずは自身の指揮、伝達系統の整備すべきでしょうと意見を述べました。

そうして、最後に私人から公人の立場に立って、

「ミサイルが飛んでくる可能性があるような、昨今です。しかも、自治会は4月が、役員の切り替えの端境期で、連絡網が一時的にずたずたになっています。此処でやられたらひとたまりもありません。それで当自治会内では、連絡網の整備点検を指示しました。警察からも

所管の各自治会に連絡網の整備点検をアドバイスしてはいかがかと」  
提案しました。関係部署で検討をすることの約束を得ました。

これで、貸しを作ったわけです。

上役はかなり平身低頭状態になりました。

これで、警察に食い込んだわけです。

そして最後の最後に

「では、例の件、よしなに」

と言って

「あと、窓口の婦警さんには、どやしつけて済まなかったと伝えておいて下さい。では」  
と付け加えて、表門から出ました。

フラットにして、押して引いて中心線に一回戻した後に、少し押し込む。

私的な用件も、幾分通りやすくなるかと思います。

別に贈収賄や癒着ではありません。ただ、事件前の被害者予備軍は、信じられないほど守られていないことに気づいたので、少し軍事兵法の術を使っていささか立ち位置とその優位性について訂正を施しに行っただけのことです。

ぼくは、かねてより、これを「軍事兵法の考え方」つまり闘わずして勝つの法、と言っているわけです。

鉄砲も槍も刀も使わずに勝つ。非戦の法則だと思っております、軍事兵法の術は。